

Vol. 40
2019 SUMMER

TSUNAGU

「繋ぐ」

愛でる

Special Issue:

紙と灯りの立体アート 「青森ねふた」

深める+
— FUKAMERU PLUS —

新たにKPPグループに加わりました
「スパイサース」

彩る 光と色彩のペーパーアート
「ローズウィンドウ」

愛でる P01

紙と灯りの立体アート
「青森ねぶた」

彩る P07

光と色彩のペーパーアート
「ローズウィンドウ」

伝える P09

短編小説の名手が記した
律儀で洗練された文面

深める+ P11

新たにKPPグループに加わりました
「スパイサーズ」

出会う+ P13

KPPの海外拠点にクローズアップ
「シンガポール大永
シンガポール本社」

特報 P14

当社代表取締役社長の
田邊 圓が旭日中綬章を受章

訪ねる P15

紙の魅力を体感できる
「ペーパーイベント・カレンダー」

作る 付録

幸福をもたらすペーパークラフト
「金魚ねぶた」

紙と灯りの立体アート 「青森ねぶた」

東北三大祭りのひとつに数えられる、「青森ねぶた祭」。

その主役として観客を熱狂させる巨大な灯籠人形「ねぶた」は、

紙と灯りの巨大な立体アートとして、

世界からも高い人気を博しています。

針金を自在に操ることで生まれる複雑な曲線美と

色鮮やかに着色された和紙を透過する光の繊細な表現。

「ねぶた」の美しさには、北国に生きる人々が

郷土の文化を守り抜こうとする、

ひたむきな情熱が詰まっています。

「青森ねぶた祭」の由来には諸説あるものの、奈良時代に中国から伝わった七夕祭の灯籠流しが変形したものとする説が有力です。その「七夕祭」に、津軽地方で伝承されてきた習俗と精霊送り、人形、虫送り等の行事が一体化したものが「ねぶた」と呼ばれる灯籠に変化したと考えられています。

出典:「青森ねぶた祭 オフィシャルサイト」(www.nebuta.or.jp)

芸術的価値を高めることが、 ねぶた文化の継承につながる

青森県青森市で毎年8月に開催される「青森ねぶた祭」。街全体が熱狂の渦と化するこの祭りには、毎年250万人を超える見物客が訪れるなど、東北さらには日本を代表する伝統行事として、国際的にも広く認知されています。青森ねぶた祭のハイライトは、巨大な人形灯籠を乗せた山車のパレードです。「ねぶた」と呼ばれる山車は、大型のもので高さ約5メートル、幅約9メートル。極彩色とそれをねじ伏せるような力強い墨の線で描かれる立体的な武者像は、鬼気迫る異風な魅力を放ちながら闇夜に浮かび上がり、生命を宿したように迫力の立ち回りを演じます。

薫風香る5月、陸奥湾に面した青い海公園に白い大型テントが立ち並ぶと、青森市民の心が色めき立ちます。青森ねぶた祭の主役となる22台の大型ねぶたがつくれるこの制作小屋は、ねぶたラッセランドと呼べ、各小屋の制作スタッフが忙しく行き交う様子が窺えます。

「ねぶたは、1年掛かりでつくるんですよ」。

そう話すのは、制作者として約30年間、毎年大型ねぶたをつくり続ける竹浪比呂央さん。「小屋が立ち上がってからねぶたづくりが始まると思っている人が多いけど、我々にとっては最終段階。頭の中では常に複数の構想を練っていますし、秋口には来年出す作品のデザインに取り掛かっています」。祭りが開催される6日間のために1年をかけて題材を考え、骨組み、電気配線、紙貼り、色付けなど段階的につくり上げられるねぶた作品。そこにはねぶたづくりに携わる人々の並々ならぬ思いがあります。

大型ねぶたは、制作総指揮を担う「ねぶた師」と呼ばれる作家を中心に、約40名のチームを編成。角材で支柱を組む大工のほか、内部に約1000個もの電球、蛍光灯を取り付ける配線工、できあがった骨組みに紙を貼るスタッフなど、専門スキルを持った熟練のスタッフが入れ替わりながら一台のねぶたを仕上げていきます。「でも、すべてのスタッフがねぶたづくりを職業としているわけではなく、大半が別の仕事をしな

がらボランティアとして協力してくれているんです。ねぶたは下絵をもとに設計図なしでつくっていきますが、長く一緒にやっている人ばかりなので作家のイメージを共有しやすい、大型ねぶたをつくることを目標にしている作家志向のスタッフもいるので、彼らと相談しながらより大きな驚きを与える作品にするための試行錯誤を続けています」。

かく言う竹浪さんもねぶただけでは食べていくことができず、ほかの仕事を掛け持ちしながらねぶたを制作していた時期があったそうです。「私の出身地であるつがる市にもねぶたの文化があつて、子どもの頃から制作の様子を眺めていました。小学3年生になるとねぶたづくりを手伝うようになり、いつかは青森の大きなねぶたをつくりたいと思っていましたが、中学、高校と進むにつれてそれを職業にするのは難しいことを知るわけです。将来の生活を考え薬剤師の道に進みましたが、それでも仕事が終

わった後の夜間と休日だけ、師匠の元でねぶたづくりの修行に明け暮れました。その努力が認められ30才を前に大型ねぶたを発表できた際は、すごくうれしかったですね。子どもの頃からの夢を実現したことで、安定した生活へ戻ろうかとも考えましたが、薬剤師よりもねぶたづくりに専念するほうが、自分らしいと感じ、35才のときに一念発起。はじめは収入を得るために週2日の非常勤として薬剤師の仕事もしていました。が、徐々にねぶたに主軸を置いた生活へとシフトすることに。応援してくれる方々のおかげで、今ではねぶたの制作だけで生活ができるようになりました」。

青森ねぶた祭は、1970年に大阪で開催された万国博覧会への出展、翌71年から84年まで東京・神宮外苑で開催されたイベント「日本の祭り」に毎回参加したことで、その知名度は一気に全国区に。80年には国の重要無形民俗文化財の指定を受け、日本を代表する盛大な祭典に発展したにもかかわらず、竹浪さんはその将来を危惧しています。「私がそうであったように、大型



ねぶた師・造形作家

竹浪 比呂央さん

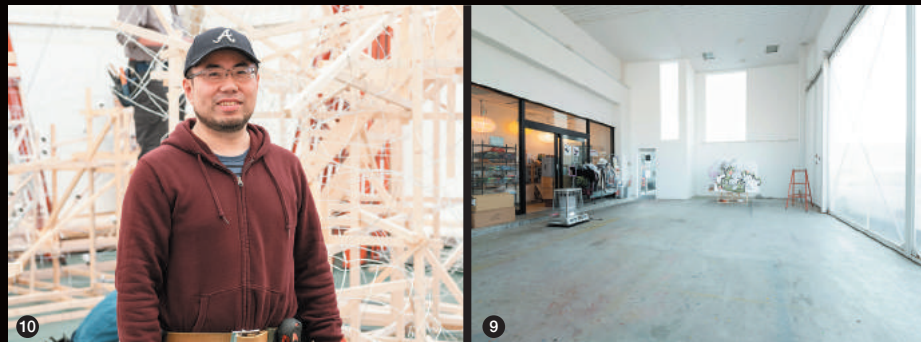
HIROO TAKENAMI

1959年、青森県西津軽郡木造町（現：つがる市）生まれ。東北薬科大学（現：東北医科大学）卒業。1989年に初の大型ねぶたを制作。以後、ねぶた師として毎年新作を発表し、ねぶた大賞、第30回NHK東北放送文化賞など多数受賞。2010年、ねぶたの創作と研究、情報発信、後継者の育成を目的に「竹浪比呂央ねぶた研究所」を立ち上げ、ねぶたによる新たな表現の可能性を追求し続ける。

■竹浪比呂央ねぶた研究所HP
takenami-nebuen.com



- ①～③／2018年の青森ねぶた祭に出展した作品。①／最高賞の「ねぶた大賞」を受賞した「岩木川 龍王と武田定清」（青森義友会）、②／「風神雷神」（JRねぶた実行プロジェクト）、③／「大海原の神 金毘羅大権現」（マルハニチロ俊武多会）。④・⑤は竹浪さん。⑥は竹浪さんの弟子・手塚茂樹さん制作による作品。④・⑤／2019年用のねぶた作品制作の様子。⑥／大型ねぶたを制作する「ねぶたラッセランド」。7月1日から8月6日までの期間は、ガイドの解説とともに小屋内を見学することができる。⑦／米国・ロサンゼルスで行われた二世週祭のパレードに出陣した竹浪さん制作のねぶた作品。⑧／ホテル雅叙園東京「和のあかり×百段階段」にて展示された、竹浪さん制作のオブジェ作品「相馬太郎良門 妖術を修る」。⑨／若手作家の創作活動のために、アトリエを提供。⑩／竹浪さんに師事し、2014年にねぶた師としてデビューした手塚茂樹さん。



ねぶたをつくりたいという若者がたくさんいます。しかし現状、ねぶたづくりだけではご飯を食べていくことはなかなか難しい。彼らを受け入れ、育てていく環境がなければ、ねぶた自体がなくなってしまうかもしれないと思っています。その芸術性と価値を高めること、ねぶた文化を未来に受け継いでいくためにも、経済的な環境を整える必要があるんじゃないかと。そのためにも、祭りのためのねぶただけでなく、ねぶたの技法を生かした造形作家として生きる道を切り開きたいと思っています」。竹浪さんは、2010年に「ねぶた研究所」を開設。若手作家の創作活動のためにアトリエを提供、企業とのコラボレーションによる作品提供や発表の場を広げることで、ねぶたの後継者を育成する活動を行っています。

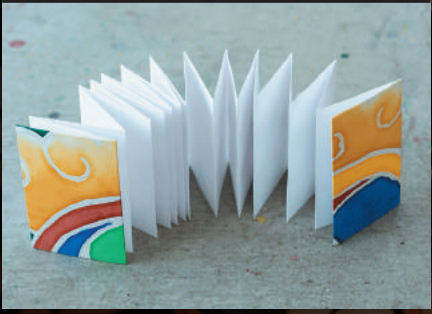
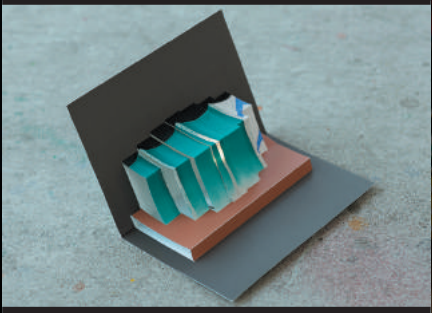
する前の白いねぶた。京都造形芸術大学では、1年生全員が取り組む基礎力養成プロジェクトとしてねぶたの技法を使った白い紙の造形作品「京造ねぶた」をつくるグループワークを実施。竹浪さんは制作アドバイザーとしてこの授業に参加し、学生の創作を支えています。「教えるというよりも、学生の作品を見たくて続けています。ねぶたの伝統技法を用いたフレームアートでもあり、光の陰影を生かした提灯でも灯籠でもない真っ白な立体造形物。それが芸術作品として評価されるようになれば、新しい展開が生まれるんじゃないかと思っています。この大学での授業をきっかけにねぶたにはまっていた学生が、驚くことに青森の企業に就職し、私のところでねぶたの技法を学んでいます。彼らは民俗行事としてのねぶたではなく、造形表現の面白さを入り口として、ねぶたの世界に飛び込んでまし

た。彼らのような若い作家の受け皿をつくることで、ねぶたの芸術性の向上につなげていきたいですね」。ねぶた独自の伝統技法と、固定概念にとらわれない新しい感性を組み合わせる柔軟な姿勢。竹浪さんの挑戦には終わりがありません。「ねぶたの伝統で変えてはいけないことが3つあります。内側から光を発すること、ねぶた自体は可動せず躍動感のある表現をすること。そしてもう一つは、紙でできていることです」。ねぶたに使用する紙には、公文書や浮世絵版画にも使用されてきた奉書紙を用いるのが通例でした。「私がかつて四国や越前の奉書紙を使っていたが、今はロール状になった業務用障子紙に切り替えています。奉書紙は、墨のノリや発色も良く、艶があるので申し分ない紙なのですが、残念ながら水に弱い。以前、待機中に数分間のゲリラ豪雨に降られて、奉書紙

がドロドロに溶けてしまったことがあったんです。耐久性を考えると変えざるを得ず、奉書紙から障子紙に切り替えました」。かつて、ねぶたの骨組みに使用されていた竹が針金に、内部に仕込む光源がロウソクから白熱球や蛍光球、LED電球に変化してきました。「ねぶたは時代とともに進化するもの」という竹浪さんの言葉どおり、伝統を守るための変革こそが青森ねぶたの真骨頂なのです。「青森人にとってねぶたは、これがなければ生きていけない」と言ってもいいくらい大切なものだし、生活の一部なんです」。8月2日〜7日の6日間にわたって青森の街を埋め尽くす光には、ねぶたを愛してやまない人々の情熱が詰まっています。



着色前の白いねぶた。内側に光を灯すと針金のフレームの線が浮かび上がり、独特のニュアンスを持つ美しい陰影をつくり出す。



ねぶたの魅力を世界に発信することを目的として、ねぶたの意匠や実際にねぶたに使用した欠片を使ったプロダクトを開発。

■「ネブタ・スタイル」
HP:nebutastyle.com



青森ねぶたの魅力、年間を通して体感できる「ねぶたの家 ワ・ラッセ」

青森を訪れた際には必ず立ち寄りたい人気の観光スポット。青森ねぶたの起源や歴史、ねぶた師の系譜などについて、映像や造形物を使ってわかりやすく紹介する多彩な展示をはじめ、祭りを盛り上げる跳人（はねと）、太鼓や鉦（かね）などの囃子演奏を体験できる企画イベント、地域の特産品を使用したカフェ・レストランやねぶた関連グッズを扱うショップが併設されるなど青森ねぶたの魅力を多角的に堪能することができます。一番の目玉は、広い吹き抜けるホールに展示された4台の大型ねぶた。祭り当日は数秒で通りすぎてしまう本物のねぶたを、あらゆる角度から間近で鑑賞することができます。



(公社) 青森観光コンベンション協会
佐々木 琢也 さん

2011年の開館以来、近隣各県はもちろん、西日本や海外からも多くのお客さまにご来館いただいています。より深くねぶたに親しんでもらうために、さまざまな体験イベント、ワークショップなどの催しを企画していますので、ぜひ一度お立ち寄りください。また当施設は観光施設としてだけでなく、ねぶた文化を継承する役割も担っています。近隣の子どもたちにも、地域で守り伝えられてきた貴重な伝統文化であるねぶたへの関心を高めてほしいと思っています。

■ ねぶたの家 ワ・ラッセ 住所:青森県青森市安方1-1-1 TEL:017-752-1311 HP:www.nebuta.jp/warasse

青森ねぶた祭2019

会 期	8月2日(金)〜7日(水) ※8月1日(木)に前夜祭を実施。
会 場	青森市中心部
料 金	無料(有料観覧席あり)
問合せ	(公社) 青森観光コンベンション協会
TEL	017-723-7211
HP	www.nebuta.or.jp

日 程	時 間	運行スケジュール
8/1(木)	18:00〜21:00頃	前夜祭【青い海公園特設ステージ】
	19:30〜20:40頃	第71回浅虫温泉花火大会【浅虫温泉】
8/2(金)	19:10〜21:00	子供ねぶた(約15台予定)
8/3(土)		大型ねぶた(約15台予定)の運行
8/4(日)	19:10〜21:00	大型ねぶた(約20台運行予定)
8/5(月)		※6日にねぶた大賞ほか、各賞を発表
8/6(火)		
8/7(水)	13:00〜15:00	大型ねぶたの運行(約20台運行予定)
	19:15〜21:00頃	第65回青森花火大会・ねぶた海上運行【青森港】



光と色彩のペーパーアート「ローズウィンドウ」

「ローズウィンドウ」との出会い、作品づくりをはじめまでの経緯を教えてください。

輸入雑貨を扱う都内の企業に勤務していたころ、ドイツから輸入されたシュタイナー教育[※]に関する1冊の本が目にとまりました。それはクラフト教材を紹介するもので、そのなかにあった「ローズウィンドウ」という教材が妙に気になったことを覚えています。ただし、こういうものがあるという紹介のみで、詳しい作り方の解説はありませんでした。それから半年が経ったある日、不思議なことですが、頭に舞い降りたかのように「ローズウィンドウ」の図案とつくり方が浮かんだのです。私は突き動かされるように都内3カ所[※]で教室を開設。ラジオや雑誌などの取材の依頼を受け、新しいアートとして取り上げられたことで著書[※]を出版することになりました。「ローズウィンドウ」と出会ってからの2年間は、とても不思議な時間でした。

「ローズウィンドウ」はなぜ生まれたアートですか？

教材として紹介されていたものは子ども向けの紙遊び程度のもので、世界中どこを探しても「ローズウィンドウ」というアートは存在しません。複雑な図案やつくり方など私自身が考案したものをベースにした、日本発の新しいペーパーアートです。

作品づくりの流れを教えてください。

大きくは、「折る、写す、切る、貼る」という4つの工程が必要です。まず丸く切った紙を何等分に折り、その紙に図案を写します。図案の線に沿って切り、円形の枠に貼り付けば完成です。簡単なものでは40分程度、複雑な図案かつ枚数が多い作品であれば、数日かけてつくることもあります。

道具や材料など、作品づくりには何が必要ですか？

道具はハサミやカッター、のりなど家庭にあるものを使用します。材料となる紙は、ラッピングペーパーのように薄くて色が均一であること、さらに光を透過する透明感のある紙でなければなりません。以前使用していた「カラペ紙」が製造中止になってしまったため、現在は「ローズ

ウィンドウペーパー」(トカラペ紙)を使用しています。

どのような発想のもとに図案を考案されていますか？

本来、ヨーロッパにある大聖堂の薔薇窓(ローズウィンドウ)を模したものでしたが、その後は古今東西のあらゆるものをヒントにするようになりました。日本庭園や水うちわなどの和の文化から、中東の宮殿ランプ、ティファニーのステンドグラスまで、世界中の芸術をモチーフにしてオリジナルの図案を考案しています。

「ローズウィンドウ」の魅力は何ですか？

模様やデザインを楽しむ切り絵とは異なり、「ローズウィンドウ」は色を表現するアートです。何色もの色紙を重ねることで繊細な色を生み出したり、作品によっては色による錯視を活用したりすることもあります。色を巧みに使うことで紙という素材を超えた美しい作品をつくり出せるのが、このアートの一番の特長であり魅力だと思っています。

どのような方が愛好していますか？

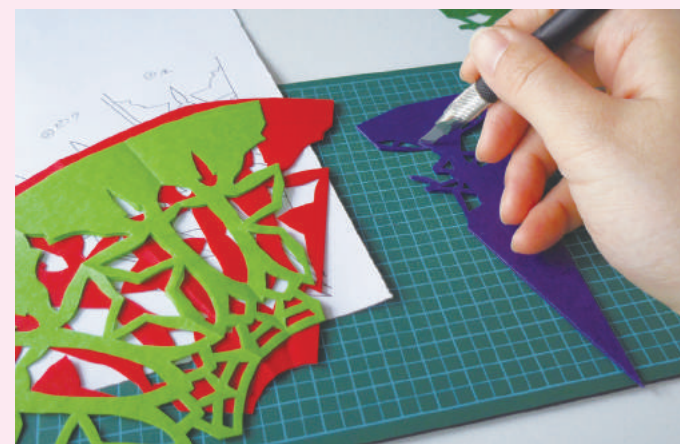
「ローズウィンドウ」は見た目の美しさだけでなく、制作そのものにも大きな価値があります。作品づくりを通して写経のようなある種の瞑想状態を感じる方も多く、癒しの作用があるため、医療やリハビリの現場でも広く取り入れられています。愛好者は年代、職業にかかわらず、女性が圧倒的に多いです。

最後に読者へのメッセージをお願いします。

「ローズウィンドウ」は誕生したばかりの新しいペーパーアートです。デジタル化が進む現代にあつて、紙という素材を生かした美しさ、さらには手づくりの楽しさや精神性を探求するアートとして、より多くの方に知っていただきたいと思っています。ご興味のある方は、私の著書や協会ホームページのぞいてみてください。

※ルドルフ・シュタイナーが提唱した、感情や意志に働きかける総合芸術としての教育。教育そのものを芸術行為ととらえ、美を感じ、洞察力や達成感を育む教育として広く世界中で採用されている。

光を透過する薄い紙を何層にも重ねることで現れる幾何学的な模様と幻想的な色彩。ステンドグラスのように光を透かして楽しむ「ローズウィンドウ」は、単なるペーパークラフトとしてではなく、心に潤いをもたらす新しいアートとして広く愛好者を増やし続けています。中山真季さんは、この「ローズウィンドウ」の作家として独自に考案した図案や技法、その魅力を発信し続ける第一人者です。彼女の豊かな感性が生み出す作品と言葉から、多くの人の心を惹きつける叙情的な美しさの根源に迫ります。



中山 真季 さん

なかやま まき○1983年、滋賀県長浜市生まれ。2005年、「ローズウィンドウ」の図案、技法を考案し、作家としての活動を開始。2007年、都内3カ所に教室を開設、多媒体で新しいペーパーアートとして紹介されたことで注目を集める。2009年、2016年に計2冊の著書を刊行。作家として創作活動を行うかたわら、講師、(一社)日本ローズウィンドウ協会の代表理事として、後進の育成、指導を続ける。

日本ローズウィンドウ協会HP
http://japan-rosewindows-association.com

BOOK

多彩な図案を収録した著書



左:『はじめのローズウィンドウ』(2009年・グラフィック社)／右:『ローズウィンドウ・色にとどめく紙のステンドグラス』(2016年・河出書房新社)
※電子書籍版もあり

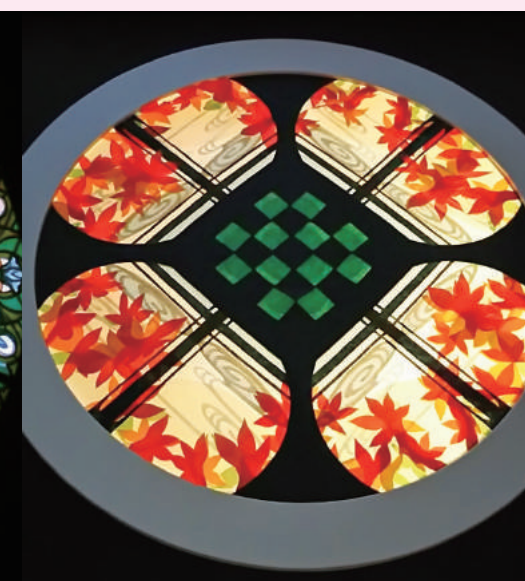
INFORMATION

ローズウィンドウづくりを体験できる
「通信講座・オンライン教室」

日本ローズウィンドウ協会主任講師・中山真季さんによる各種講座があります。初心者向けの通信講座「はじめのローズウィンドウ(全6回)」は、スマホやパソコンでも受講可能。この講座を修了すると、「全国の各教室講師認定講座」「講師認定オンライン通信講座」の受講資格が得られます。詳細は協会ホームページをご参照ください。



これまでに開催された講座の様子。



「手紙」は語る

植村 鞆音

人間は表現する動物だというが、

手紙は人間の表現のなかでもっとも深く高貴なものだと思う。

手紙は手書きがいい。眼光紙背に徹すれば、書き手の人となりが見えてくる。

第十八回 永井 龍男【前編】

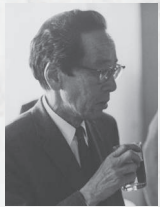
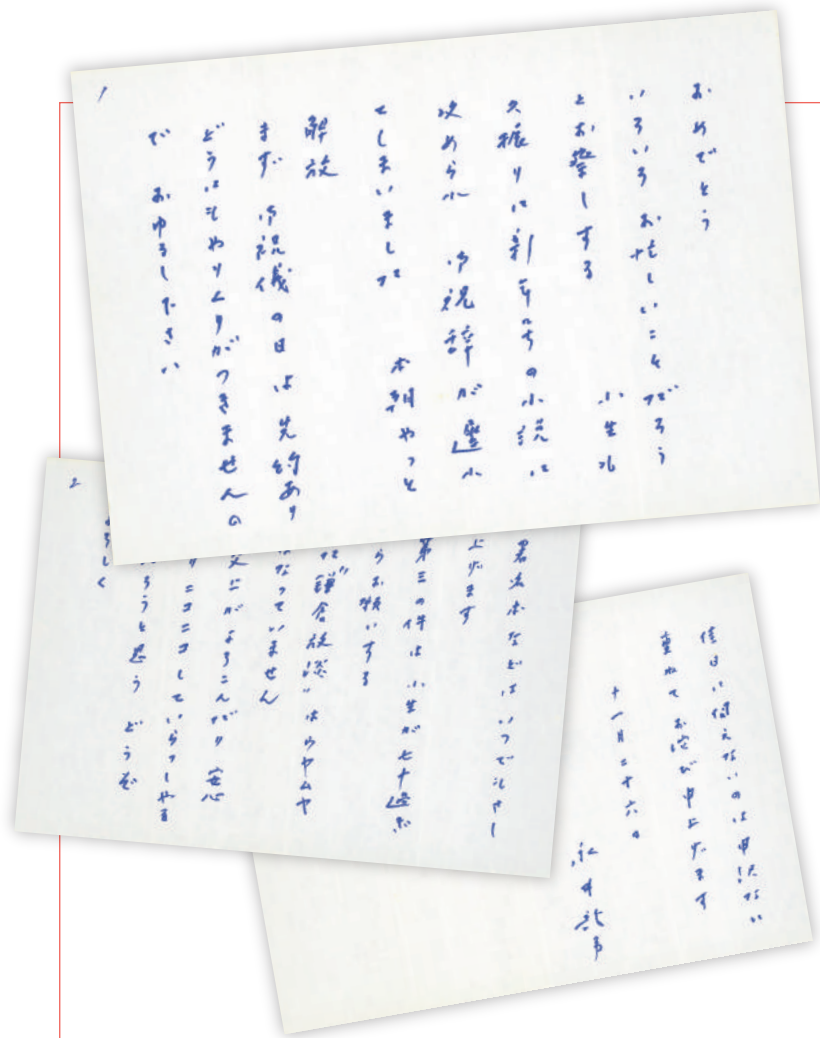
先だつて友だちになった東大生二人に永井龍男を知っているかと質問したら、二人とも知らなかった。もつとも、二人は物理学専攻ではあったが。わたしが若い頃、永井龍男は川端康成や小林秀雄などと並ぶ文壇の長老であった。

最初に会ったときが思い出せない。わたしは直木三十五の甥にあたり、父から伯父と永井さんとの関係を多少知らされてはいたが、さて、誰からいつ紹介されたのか。多分、三十歳のころ香西昇さんから紹介されたのだろうと思う。香西さんは直木の愛人・香西織恵さんの弟で、「オール讀物」の編集長などを経験し、当時は文藝春秋クラブの支配人をされていた。わたしは、香西さんに誘われて鎌倉の永井家に出入りするようになった。永井さんは気難しい作家として知られていたが、初めてお目にかかったときからわたしには優しく穏やか、ときに軽口もあつた。というのも、文藝春秋の編集者時代、人づきあいのうまくない永井さんを唯一かわいがってくれたのが社友だった直木三十五だったそうで、その甥であるわたしに多少のシンパシーを感じておられたのかもしれない。わたしは伯父似だったことでずいぶん得をした。あとで知ったのだが、晩年伯父が惚れた静岡の八重千代という美人芸者(後の建築家・吉田五十八

ま考えるとあつかましい極みだが、永井さんに披露宴の招待状を送った。折り返し、桐の箱に紅白の水引をかけたお祝いが届き、手紙が添えられていた。

「おめでとう いろいろお忙しいことだろうとお察しする 小生も久振りに新年号の小説に攻められ 御祝辞が遅れてしまいました 本朝やと解放 まず御祝儀の日は先約あり どうにもやりくりがつきませんので おゆるし下さい 署名本などはいつでもさし上げます 第三の件は小生が七十過ぎたらお願いする また「鎌倉放談」はウヤムヤになっていません お父上がよろこんだり安心したりニコニコしていらつしやることだろうと思う どうぞよろしく 佳日に伺えないのは申し訳ない、重ねてお詫び申上げます」

日付は、わたしが三十歳、昭和四十三年暮となつてゐる。わたしたちは十二月に入つて慌ただしく東京で挙式し、予定も立てずに数日かけて母や父の故郷、京都や大阪を回り、東京に戻った翌日、京都で買った「湯葉半」の生湯葉を土産に鎌倉の永井邸に報告と挨拶に伺つた。たしか、その日はうらかな小春



永井 龍男

小説家／随筆家／編集者
1904-1990

東京市神田区(現:東京都千代田区)出身。1923年『黒い御飯』で注目を集め、菊池寛、小林秀雄らと親交を結ぶ。1927年文藝春秋社に入社、『オール讀物』『文藝春秋』の編集長を務める傍ら創作活動が続ける。戦後は小説家として『青梅雨』『秋』『一個 その他』『コチヨバンバ行き』などを発表。横光利一賞、菊池寛賞、日本芸術院賞、川端康成文学賞のほか、1981年には文化勲章を受賞。鎌倉文学館初代館長。

夫人)がいるが、直木は彼女を若い永井さんに紹介し、永井さんは真剣に彼女との結婚を考えたことがあるらしい。また、その後永井さんは久米正雄夫人の妹さんと結ばれるが、悦子夫人は小柄の美人でやさしく、結婚の際には直木から鏡台を贈ってもらった、その鏡台はいまでも使っていると話されていた。そんな縁もあつてわたしはたちまち永井家のお仲間に加えていただき、いつの間にか新年会のレギュラーメンバーになった。永井さんは戦後菊池寛などとともにバージ*にあい、日比谷出版という出版社の社長をなさつた時代があり、新年会には香西さんをはじめ当時のお仲間や、ご近所の今日出海*さんや那須良輔さんなどが顔を出されることもあつた。悦子夫人は料理がお上手で、正月のおせちは、半分は銀座の料理屋から届けられたが、半分は悦子夫人のお手製で甲乙つけ難いほど旨かつた。酒は永井さんが発掘された辛口の日本酒、岐阜の「三千盛」。永井さんの推薦で鎌倉文士行きつけの銀座「きよ田」、鎌倉「大繁」、 「ひろみ」など、酒はみな右へ做えの「三千盛」だった。

おつき合ひするようになって間もなくわたしは結婚することになり、日和でご夫妻とも上機嫌。出された紅茶に永井さんが後ろの茶箆筒からとり出した舶来のウイスキーをどぶどぶと注いでくださったのを覚えている。

改めて手紙の文面を吟味してみると、わたしは披露宴の案内にことかりて二つのお願いと二つの確認をしているように見える。一つ目が署名本寄贈の依頼。二つ目が「鎌倉放談」というテレビ番組企画の現状確認。三つ目はどうやら作家の弟子にしてくれと頼んだようである。「鎌倉放談」というのは永井さんとわたしで企画したトーク番組のことである。進めてきた企画の進捗状況をわたしが問うたのだろう。弟子にしてくれというわたしの依頼は七十歳になつたらと軽くなされている。永井さんはこの年まだ六十四歳だった。

署名本は数年後、なにかの折にご自宅に伺つたときに頂戴した。本は「自撰作品十二種」(新潮社)である。あとがきには「ここに一小作家がいて、ある心祝いに短編集が二冊だせたらとひそかに願つていた」と書いている。年譜を見ると、発刊されたのは一九七四年。永井さんが古希、勲二等瑞宝章を受章した年である。思い入れのある書籍だったに違いない。扉の裏には直筆で「東京はわがふるさとよ獅子囃子 龍男」と筆で書いた署名がある。



著者略歴

植村 鞆音 エッセイスト

小説家・直木三十五の甥、東洋史学者・植村清二の子として愛媛県松山市に生まれる。1962年早稲田大学第一文学部史学科卒業後、東映を経てテレビ東京に勤務。同局常務取締役、(株)テレビ東京制作代表取締役社長等を歴任。2005年『直木三十五伝』で尾崎秀樹記念・大衆文学研究賞受賞、2007年『歴史の教師植村清二』で日本エッセイスト・クラブ賞受賞。主な著書に『夏の岬』『気骨の人 城山三郎』など。

*ページ:「追放」の意。公職などから締め出されること。



① 田辺社長ほか当社社員でスパイサーズを訪問。② スパイサーズのメンバー。③ 今回の契約に際し尽力されたイアン・ウィリアム氏と田辺社長。

の商品を豊富にそろえ、事業を展開しています。

私たちの企業価値は、「成果責任」「誠意」「協調」「ダイナミック」という4つの大きなテーマに集約されています。私たちは当社の企業としての価値観を常に心に留め、すべてのスタッフが自らに課した目標を実現することを最重視し、相互に支えあいながら目標達成をめざしています。スパイサーズとKPPの価値観には共通点があります。両社のビジネスの手法は異なっていますが、確かなインテグリティとともに成功に向けて一丸となつて取り組む姿勢は同じなのです。

今後は、KPPチームとスパイサーズチームが言葉を交わす機会も増えるでしょう。アイデアを共有し、互いのビジネスについて理解を深める場を積極的につくっていききたいと思っています。学ぶこと、理解することは、両社の協調性を高めるうえで非常に重要です。私たちはスパイサーズの戦略を実行するだけでなく、今後はKPPグループの主要メンバーとして、よりいっそう収益性を高めていきたいと考えています。

Spicers



社名 スパイサーズ
本社 ヴィクトリア州（オーストラリア）
住所 155 Logis Boulevard,
Dandenong South Victoria 3175, Australia
設立年 1896年
従業員数 298名（オーストラリアおよびニュージーランド）
拠点数 12カ所
事業内容 商業印刷・デジタルメディア、ラベルパッケージ関連、工業包装・サイン&ディスプレイ、消耗品およびハードウェア、建築およびインテリアデザイン

スパイサーズは、商業印刷、ラベル、看板、ビジュアルディスプレイ、建築などの分野で、高品質材料、機器およびソリューションの供給に情熱を注ぐ、ダイナミックな企業です。商業印刷紙という従来の市場をリードしてきたスパイサーズは、今ではデジタルメディア、消耗品、ハードウェア、建築といった成長市場で確かな地位を築いています。私たちは日々、約束を果たすことによって、お客さまの優れたビジネスパートナーになりたいと考えています。

新たにKPPグループに加わりました「スパイサーズ」

新たにKPPグループの一員となった「スパイサーズ」。オーストラリアおよびニュージーランドにおける紙・包装資材等の卸商として確固たる地位を築く同社の魅力を、デビット・マーチンCEO and Director自らのメッセージとともにご紹介します。

深める+

FUKAMERU PLUS

スパイサーズは、高品質な商品の供給に情熱を注ぐ、ダイナミックでソリューションを重視する企業です。

スパイサーズは1896年から幅広い顧客に向けて商品を供給してきました。紙商品をはじめ、現在では印刷用紙、包装資材、ラベル、看板・ディスプレイ、建築・内装などの幅広い分野で事業を展開しています。その多様性、製品の種類や事業地域だけでなく、各分野におけるスタッフの専門性にも表れています。当社には、技術とアプリケーション面でのお客さまから高い信頼を得られている商品、業界に通じたメンバーがそろっています。オーストラリア8カ所、ニュージーランド4カ所、合計12カ所の事業拠点に1万点もの在庫を保有。各業界に精通した300人の優秀な社員が5000社を超えるお客さまにサービスを提供し、収益面でも成長を続けています。行き届いたサービス、製品の多様性、スタッフの優秀なスキルは、競合企業を大きく引き離しています。

世界中に仕入先を有していることは、真のグローバル企業であることを意味しています。当社の事業にとってすべての取引関係が重要であり、私たちは印刷、包装、看板、ディスプレイの各分野における世界的ブランド



Spicers Limited
CEO and Director
David Martin
デビット・マーチン氏

当社代表取締役社長の 田邊 圓が 旭日中綬章を受章

5月21日、令和元年春の叙勲受章者が内閣府から発表され、当社の田邊 圓代表取締役社長が、永年にわたって産業振興に貢献した功勞により、旭日中綬章を受章しました。



「叙勲の栄に浴して」

この度、春の叙勲にて「旭日中綬章」の栄に浴しました。推薦母体は日本板紙代理店会連合会ですが、今回の受章は同業界団体ならびに当社グループを代表してのものであり、これまでの業界活性化への継続的な取り組みや、当社のビジョンに沿った事業展開と環境・社会に対する貢献をご評価いただいた結果です。紙パルプ業界や当社のステークホルダー、当社グループの歴史を築き上げてきた先輩諸氏、そして日ごろから業務に奮闘されている社員の皆さまに心より感謝いたします。

当業界においては、日本板紙代理店会連合会会長、日本紙商団体連合会副会長、日本洋紙代理店会連合会副会長として、微力ながら業界の発展に尽くしてきました。当社グループの功績としては、経営ビジョン「GIFT+1」に基づいた「総合循環型事業の促進」、「海外市場の拡大」、「ソリューション事業の展開」、「トータルパッケージの推進」、そして、その結果として東証一部に上場したことが主に評価の対象となりました。

紙パルプ業界は、少子高齢化や電子媒体へのシフトなどの影響から難しい局面にありますが、海洋プラスチック汚染問題による脱プラ需要や、eコマース市場の拡大によるパッケージ需要など、強い追い風も吹いています。加えて、アジアを中心とした海外市場の成長に伴う紙パルプ需要全体の伸びも期待できます。叙勲の栄誉を皆さまと分かち合い、今後ともビジョンに沿った経営を続けることで、業界全体の発展に寄与し、社会に貢献し続けていきたいと考えています。

代表取締役
社長執行役員CEO
田邊 圓

KPPの 海外拠点に クローズアップ

出 会 う +
DEAU PLUS



■DATA
#04-01 PIL Building, 140 Cecil Street, SINGAPORE 069540
TEL: 65-6220-2119 FAX: 65-6225-3675
E-Mail: spore@daiei.com.sg

DAIEI PAPERS(S) PTE LTD Singapore Head Office

シンガポール大永 シンガポール本社



KEY PERSONS 01

総務
Shirley Leong
シャリー・レオンさん



シンガポール大永に入社して30年以上が経過しました。私たちは小さな駐在オフィスからスタートし、今では地域を統括する本社へと大きく発展できたことをとてもうれしく思っています。やりがいのある業務を通じて喜びに満ちた日々を過ごし、私自身が人間的に成長できたのも、私を信頼してくれたすべての上司、仲間である同僚たちのおかげであり、心から感謝しています。現在は、総務と経理のサポート業務を担当しています。定年退職の日が近づいていますが、今後もシンガポール大永が末永く発展することを心から願っています。

- Q1** 担当している業務は？
「総務、経理」
- Q2** 性格をひと言でいうと？
「忍耐強い、集中力がある」
- Q3** モットーは？
「信頼は得るもの、
忠誠心は返すもの」

KEY PERSONS 02

販売、マーケティング、事業開発
Chang Hon Vie
チャン・ホン・ヴィさん



より優れた人間性を育むためには、正義感を持ってつねに正しい行動を心がけ、ワーク・ライフ・バランスを保つことが大切です。私はそれを実現するために、リラックスする時間をきちんと取りその日1日を笑顔ではじめること、直面するすべての試練や苦難に対しても感謝することを大切にしています。また、人生において正しい見方と判断ができる人は、時間を最大限に活用しています。私は、先を見据えた計画を立てること、自分自身を向上させるために過去の経験から学ぶこと、決して後悔せず後ろを振り返らないことを心掛けています。

- Q1** 担当している業務は？
「紙・パルプ取引」
- Q2** 性格をひと言でいうと？
「積極的、目的志向」
- Q3** モットーは？
「後悔のない人生を送れ」

OUR BUSINESS

シンガポール大永は、インドネシア、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナムの拠点を傘下におき、紙、板紙、紙関連原材料の取引を行っています。当社はGDP成長が見込まれる東南アジアと連動することで、力強く成長することをめざしています。



～8/23(金)

EXHIBITION

TSUNAGU GALLERY vol.10 仙台七夕飾り

当社関連会社・鳴海屋紙商事が制作した、仙台七夕まつりで使用される“本物の”笹飾りを本社エントランスに展示します。清々しい青竹に飾られた豪華絢爛な笹飾りを、ぜひ間近でご覧ください。※見学をご希望の方は受付までお気軽にお声がけください。



写真は昨年の展示の様子

DATA

- 会場：国際紙/パルプ商事本社1Fエントランス
(東京都中央区明石町6-24)
- 料金：無料
- 問い合わせ：経営企画部 IR・広報課
- TEL：03-3542-4169
- HP：www.kppc.co.jp

8/3(土)・4(日)

EVENT

能代七夕「天空の不夜城」

天守閣や鯉を冠した巨大な城郭型の灯籠が太鼓やお囃子とともに能代の街を練り歩く、夏の伝統行事。色鮮やかな装飾が施された迫力満点の灯籠が闇夜に浮かび上がる幻想的な光景は、一見の価値があります。

DATA

- 会場：秋田県能代市(国道101号線
市役所交差点～昭南町交差点区間)
- 料金：無料(有料観覧席あり)
- 問い合わせ：協議会事務局
- TEL：0185-52-6344
- HP：www.noshiro-huyajou.jp

8/6(火)

EVENT

ピースメッセージとうろう流し

原爆ドーム横を流れる元安川に約8,000個の灯籠を流し、原爆死没者の慰霊とともに恒久平和を祈願する恒例行事。一部の灯籠には、原爆の子の像に手向けられた折鶴を再生した紙が使用されています。

DATA

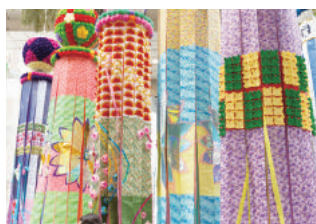
- 会場：広島県広島市中区大手町一丁目
(原爆ドーム～元安橋付近)
- 料金：無料(流灯は1個につき600円)
- 問い合わせ：とうろう流し実行委員会
- TEL：082-245-1448
- HP：www.urban.ne.jp/home/tourou

8/6(火)～8(木)

EVENT

仙台七夕飾り

藩祖伊達政宗公の時代から続く、日本一のスケールを誇る七夕まつり。吹き流しや仕掛けものなど、趣向をこらした約3,000本の笹飾りは、毎年新たに手作りされるもの。幾重にも重なり風にたなびく色鮮やかな和紙飾りを、心ゆくまでお楽しみください。



仙台七夕まつり協賛会

DATA

- 会場：宮城県仙台市
(市内中心部および周辺商店街)
- 料金：無料
- 問い合わせ：仙台七夕まつり協賛会
(仙台商工会議所内)
- TEL：022-265-8185
- HP：www.sendaitanabata.com

8/6(火)・7(水)

EXHIBITION

文紙MESSE2019

3万点以上の最新アイテムが一堂に集まる、国内最大級の文具と紙製品の見本市。デザイン性、機能性に優れた各種商品展示のほか、新製品コンテスト、川柳コンテスト、講演会など多彩なイベントにも注目です。

DATA

- 会場：マйдームおおさか
(大阪府大阪市中央区本町橋2-5)
- 入場料：無料
- 問い合わせ：協議会事務局
- TEL：06-6768-4919
- HP：www.bunshi-messe.com

9/18(水)～20(金)

EXHIBITION

2019札幌パック

北海道産業界のニーズに対応した新しい情報・技術・システムが集結する“包装と食”の専門イベント。包装分野の優れた資材や製品、最新技術・情報など、進化を続ける包装の可能性に触れることができます。

DATA

- 会場：アクセスサッポロ[札幌流通総合会館]
(北海道札幌市白石区流通センター4-3-55)
- 入場料：500円
- 問い合わせ：事務局(日報ビジネス株式会社)
- TEL：03-3262-3462
- HP：www.nippo.co.jp/pack019

※開館日・開館時間などは、各ホームページにてご確認ください。 ※イベント・展示は、諸事情により変更される場合があります。おでかけの際は、事前にホームページまたはお電話にてご確認ください。

国際紙パルプ商事が発行するTSUNAGU(繋ぐ)は“紙の魅力再発見”をテーマに、紙と文化・紙と事業・紙と人を「繋ぐ」広報誌です。



輸送マイルージとCO2排出を抑え、地球温暖化に配慮したライシンキを使用しています。

エコ・プレス
バインダー

針金・糊・熱が不要な製本方法を採用し、リサイクルや怪我の危険へ配慮しています。



国際紙パルプ商事株式会社
KOKUSAI PULP&PAPER CO.,LTD.

発行：経営企画本部 経営企画部 IR・広報課
〒104-0044 東京都中央区明石町6番24号
TEL (03) 3542-4111 (代)
URL <http://www.kppc.co.jp/>

「TSUNAGU」Vol. 40 使用紙：ユーライト(127.9g/m²/日本製紙株式会社)白さに優れており、マットコート紙でありながら多色印刷によって高い印刷光沢が得られます。

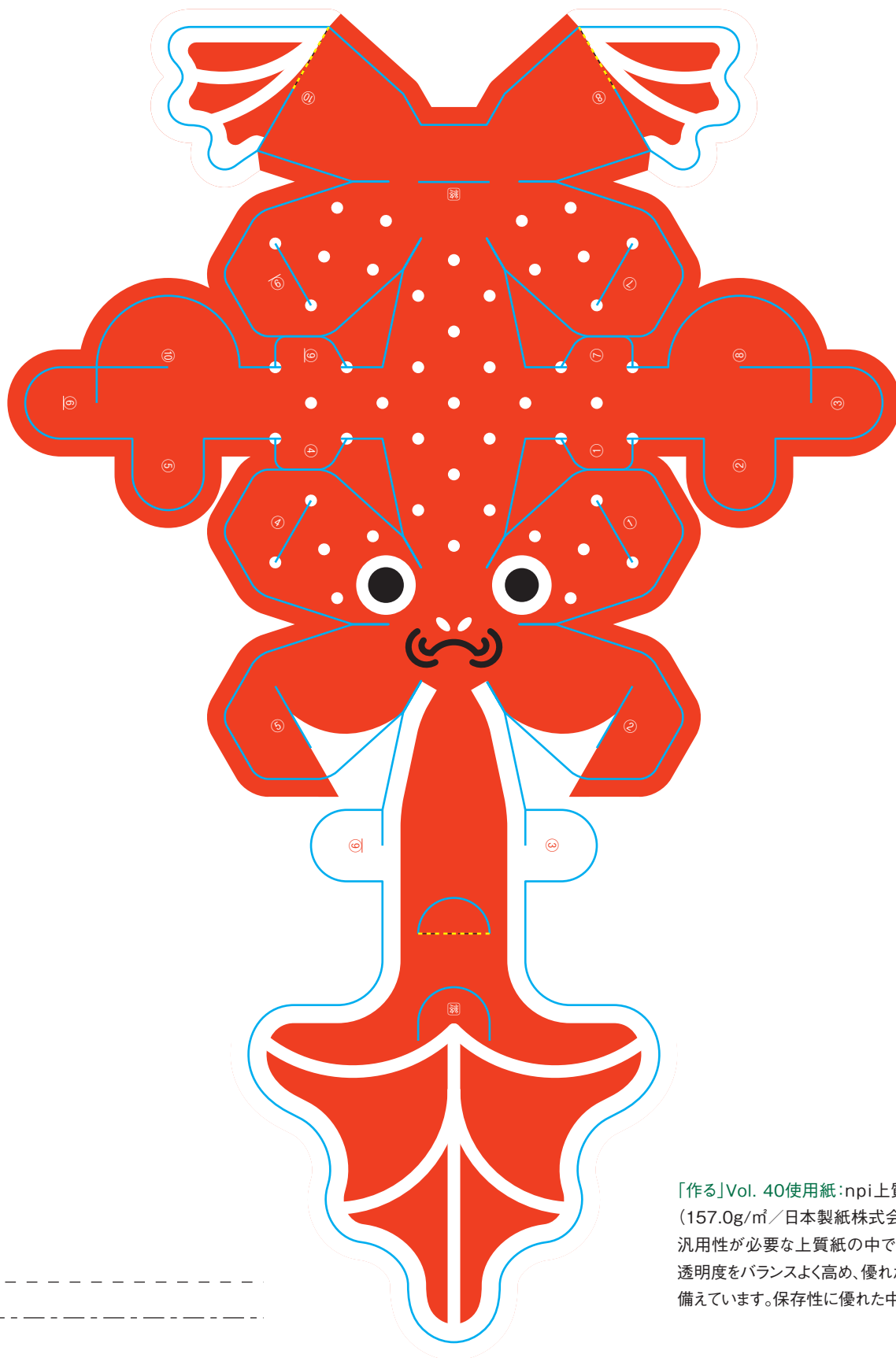
作る

紙と触れ合い、モノを作る

「PAPERCRAFT on the DESK」

幸福をもたらす
ペーパークラフト
「金魚ねぶた」

勇壮なねぶた人形とともに、青森ねぶた祭を盛り上げる「金魚ねぶた」。
その愛嬌たっぷりのキャラクターから、小さな子どもたちが持ち歩くアイテムとして、
また青森の文化を象徴するかわいい民芸品として、多くの人に親しまれています。
この「金魚ねぶた」は、江戸時代に津軽地方で「幸運をもたらす金魚」として
飼育されていた「津軽錦」という金魚がモデルとされています。
デスクに飾れば、あなたの元にも幸運を運んでくれるかもしれません。



「作る」Vol. 40使用紙:npi上質
(157.0g/m²/日本製紙株式会社)
汎用性が必要な上質紙の中でも白色度、不
透明度をバランスよく高め、優れた印刷適性を
備えています。保存性に優れた中性紙です。

山折り線 — — — — —

谷折り線 — — — — —

作り方

1 全体を切り抜いたら、パーツにある同じ番号に差し込み、①から順に接続します。

2 図のように丸めながら①を接続します。



3 同じ要領で②を接続します。



4 ③の切り込みにしっかりと奥まで差し込みます。

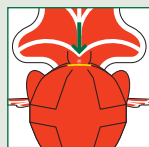


その後、逆側の④～⑥までも同様に進めます。

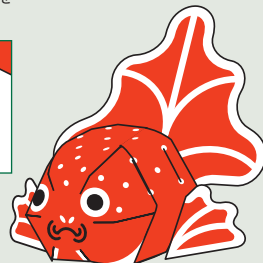
5 顔の部分が完成したら⑦を差し込み、接続します。



6 ⑧の切り込みにしっかりと差し込んだら、右図のように折り返します。その後、⑨・⑩も同様に進めます。



7 ⑩を接続した後、尾の部分の罫マークを差し込みます。その際、右図のツメを開きます。



完成!

